

4-3 ミニシンポ 格差と貧困をめぐる日独比較

□開催目的・概要

各国において格差と貧困の問題は深刻化しており、日本でも6人に1人は相対的貧困状態にあるとされます。しかし、再分配による貧困率の改善には国によって大きな相違があります。これは、再分配に関する国民的合意のあり方や、貧困からの脱却に向けた施策体系の如何によってもたらされていると考えられます。本シンポジウムは、ドイツにおける貧困研究、特に子どもの貧困に関する研究で知られるヨハネス・ミュンダー教授の来日を機に企画されました。ミュンダー教授には、ドイツにおける「貧困との闘い」を、若者の貧困に焦点を当てつつお話し頂き、横山教授には、日本における格差と貧困の現状を踏まえつつ、政策上の課題を論じて頂きます（通訳あり）。この日独比較をふまえて、格差と貧困をめぐる問題全般について議論することを目的とします。

□日時 平成26年11月7日（金）14：00～17：30

□会場 金沢大学附属図書館 3階 AV室

□プログラム

（報告者1）ヨハネス・ミュンダー氏（元ベルリン工科大学教授）

（報告者2）横山 壽一（金沢大学経済学経営学系教授）

（コーディネーター） 武田 公子（金沢大学経済学経営学系教授）

□主催 金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センター

□共催 「ドイツ求職者基礎保障10年の検証」研究会

関係性及び連携と連帯に着目した新たな行政観の構築可能性とその 具体像に関する研究会

□参加者数

20人

□写真



ミニシンポ 格差と貧困をめぐる日独比較

日時:2014 年 11 月 7 日(金) 14:00~17:30

場所:金沢大学附属図書館3階 AV室

各国において格差と貧困の問題は深刻化しており、日本でも6人に1人は相対的貧困状態にあるとされます。しかし、再分配による貧困率の改善には国によって大きな相違があります。これは、再分配に関する国民的合意のあり方や、貧困からの脱却に向けた施策体系の如何によってもたらされていると考えられます。本シンポジウムは、ドイツにおける貧困研究、特に子どもの貧困に関する研究で知られるヨハネス・ミュンダー教授の来日を機に企画されました。ミュンダー教授には、ドイツにおける「貧困との闘い」を、若者の貧困に焦点を当てつつお話し頂き、横山教授には、日本における格差と貧困の現状を踏まえつつ、政策上の課題を論じて頂きます(通訳あり)。この日独比較をふまえて、格差と貧困をめぐる問題全般について議論できればと考えています。どなたでもご自由にご参加ください。

報告者1:ヨハネス・ミュンダー教授

元ベルリン工科大学教授(2010年に退官)。社会保障法および家族法を主に研究。

貧困その他困難な状況に置かれた子ども・青少年を支援する団体であるSOS子ども村ドイツ[SOS Kinderdorf]の理事長を務める。和訳されている論文として、「家族と子どもの貧困の緩和—社会法典第2編と第8編をつうじて」賃金と社会保障1532号(旬報社、2011年)；「子どもの社会的・文化的最低生活保障」大阪弁護士会編『貧困問題がわかる3世界の貧困と社会保障』(明石書店、2012年)所収。

報告者2:横山 壽一 金沢大学経済学経営学系教授

地域連携推進センター長兼任。専門は社会保障論。主著として『社会保障の再構築—市場化から共同化へ』(2009年)；『皆保険を揺るがす「医療改革」(編著)』(2013年)他。

コーディネーター:武田 公子 金沢大学経済学経営学系教授

主催:金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センター

共催:「ドイツ求職者基礎保障10年の検証」研究会

共催:関係性及び連携と連帯に着目した新たな行政観の構築可能性とその具体像に関する研究会

(問い合わせ先:武田研究室 076-264-5412)